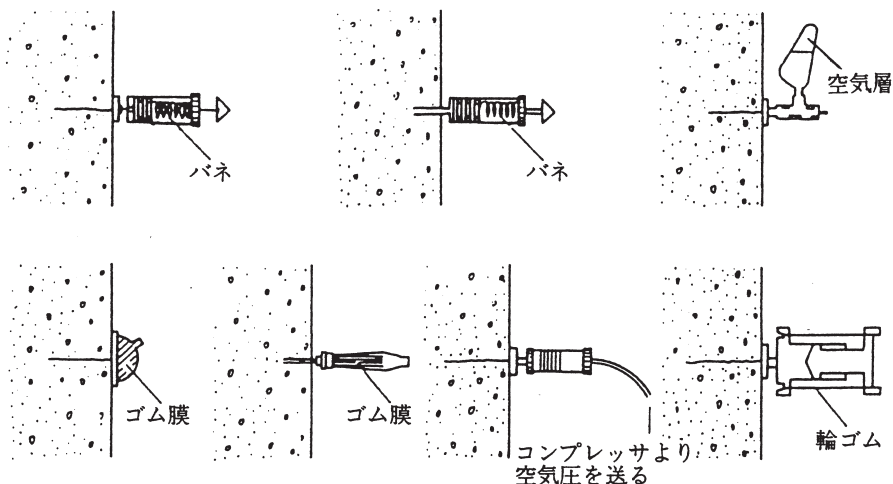


設問 8 コンクリート打放し仕上げ外壁のひび割れ部の改修における樹脂注入工法は、外壁のひび割れ幅が0.2mm以上1.0mm以下の場合に主に適用され、シール工法やUカットシール材充填工法に比べ<sup>①</sup>耐久性が期待できる工法である。  
<sup>②</sup>挙動のあるひび割れ部の注入に用いるエポキシ樹脂の種類は、軟質形とし、粘性による区分が<sup>③</sup>高粘度形又は中粘度形とする。

考え方・解き方

コンクリートひび割れを樹脂注入工法により補修するもので、今後このように、改修工事が出題される可能性がある。

- (1) コンクリート外壁のひび割れ部改修工法としては次のものがある。
  - ① 樹脂注入工法：コンクリート打放し外壁仕上げの補修（ひび割れ幅1.0mm以下）
  - ② Uカットシール材充填工法：コンクリート打放し外壁仕上げ補修（ひび割れ幅0.2mm以上、1.0mm以下）
  - ③ シール工法：コンクリート打放し外壁仕上げの補修（ひび割れ幅0.2mm未満）
- (2) ひび割れ幅0.2mm以上、1.0mm以下の場合は、樹脂注入工法を用い、ひび割れの挙動のないときは、硬質形エポキシ樹脂を、挙動のあるときは、軟質形エポキシ樹脂を用いる。軟質形の粘性は、低粘度又は中粘度のものを用い挙動の伸縮に追従できるようにする。よって、軟質形を用いるときは高粘度形でなく、低粘度形である。よって、③は誤り。
- (3) エポキシ樹脂注入材の施工は、降雨や結露のある場合は作業を中止する。



エポキシ樹脂の自動式低圧注入用器具（建築改修工事監理指針）